鉄砲洲神社　論語素読　解説

（平成 21 年 12 月 4 日）

八佾第三

10　子曰く、禘既に灌してより往は、吾之を観ることを欲せず。

孔子が言うには、「天子の大祭を実行する時に、神様を大地に呼び降ろす儀式を始めたら、もう私はこれを見たくはない」

禘とは天子が先祖のお祭りをする大祭で、始めに灌といって、神の酒を大地に注いで呼び寄せる儀式をします。そのお神酒は、黒黍の酒に鬱金香（うっこんこう)という草の汁を入れた香りの高い酒で、鬱鬯酒（うっちょうしゅ）という名前だそうです。

魯という国で、天子がするような大きなお祭りをすること自体が礼儀に外れているし、その儀式の作法そのものも礼儀に外れているので、孔子は見ていられないわけです。見ること自体自分自身が恥ずかしくなってくると、かなり批判をしています。

11　或ひと禘の説を問う。子曰く、知らざるなり。其の説を知る者の天下に於けるや、其れ諸れを斯に示るが如きかと。其の掌を指す。

或る人（有力な政治家）が「禘というお祀りはどういうものなのでしょうか？」と孔子に聞きました。

孔子が「私は知りません。お祭りの意味を知っている人であれば、尚且つ、天下に望みを持つ人であれば、天下を手中に納めることができるだろう」と言いながら、自分の掌を指差した。

この経緯は、魯という国の中で、4 代目の閔公と 5 代目の僖公が兄弟相続をし、その後、僖公の子供の文公が相続しました。先祖のお祭りで、文公が自分の父親の位牌を閔公の前に持ってきたので、孔子が、自分の父親だからといって（本来なら後ろに置くべきであるのに）偉い方に持っていくのは礼儀知らずだと思っているわけです。

この乱れをあなたはどう考えているのかねえ、と有力な政治家が聞いたので、孔子が「そんな事は答えようがない。知らない」と答えたわけです。

10 の文章も 11 の文章も、礼儀知らずは何をやっても礼儀知らずしか出来ないということ

です。礼儀知らずの人が、横車を押し通して自分の主張を通すことと解釈して、現代に置き換えて考えましょう。

今、テレビで見ていると、社民党の福島瑞穂さんが自分の党首の座を追われそうになるので連立政権の中で横車を押して、普天間基地問題を自分の思う方向に曲げようとしています。これは自分の、たかだか社民党という一つの小さな政党の党首の座と、日本とアメリカとの日米同盟を崩そうという事と、比べること自体がおかしいのですが、礼儀知らずと言うよりも、どちらが重要かを判断する大局観のない政治家の動きだと感じます。

礼儀知らずということですぐに頭に浮かぶのは、衆議院選で 2 日間の在籍をして 1 ヶ月分の給料を貰って恥じない人達が、今、行政刷新会議等をやっていますので、どこをどうすれば信用できるのかと思います。礼儀知らずの人達の集まりが、今の連立政権ではないかと感じます。

12　祭(まつ)るには在(いま)すが如(ごと)くし、神(かみ)を祭(まつ)るには神在(かみいま)すが如(ごと)くす。子曰(しいわ)く、吾(われ)　祭(まつり)に与(あず)からざれば、祭(まつ)らざるが如(ごと)しと。

先祖を祭る時には、先祖が自分の前にいるような氣持ちで、真心を尽くしてお祭りをすべきであるし、神様を祭るときには、神様が自分の前にいるように祭りをすべきである。

孔子が言うには、「もし、お祭りに参加出来ない時は、自分自身納得がいかないし物足りない。祭りそのものに出られないというのは、非常に口惜しいことだ。」

冠婚葬祭の特に葬については、是非とも参加したいものだという意味です。

最近、寒くなりましたからお葬式も多いと思います。お葬式の時に、私がやっていることは、亡くなった方と話が出来るかどうか分かりませんが、目を瞑って話しかけてみます。そうすると、何か答えが返ってくるような氣がする時と、何も返ってこない時もあります。お付き合いが深い場合は、どうも、何か答えてくれるような氣がしてなりません。もしかすると魂があるのかもしれないので、お葬式に出た時、その人と話をしたいと思った時は、最後のチャンスですので、顔を見るより目を瞑って話しかけてみることをお勧めします。

渋澤栄一はキリスト教も仏教も信じないと言っていました。しかし宗教に対しては、神様を敬う気持ちは持っていることを標榜しています。渋澤栄一は 24 歳の時に血洗島を家出したのですが、それまでは親の代わりに血洗島の諏訪神社の氏子総代を務めていました。功

挙げ名を遂げた後、その神社を改築する資金を提供しています。又、小学校で受けた教育よりは、神社で敬虔な氣持ちになる体験の方が、自分の人格形成の上では役に立ったと述懐しています。どこかで自然に対する畏敬の念を持つということはお勧めです。

今、季刊誌「知足」に来年の干支について原稿を書いていますので、少し話を致します。

今年は己丑（きちゅう）です。干支学から申しますと、「出口の見えないトンネルに入り、その中で右往左往する」という事を、昨年の今頃申し上げています。

来年は庚寅（こういん）です。「庚」とは、去年の動きを今年も受け継ぐ・反省して償いをする・改めて新しい道を進み始める、という三つの意味があります。「寅」は、『易経』に、「大人虎変し、君子豹変す」とあります。虎は秋から冬にかけて毛が生え変わって、目も鮮やかな色になる。それを虎変と言います。大人とは、安岡正篤先生の解説で内閣総理大臣を意味するとあります。つまり、内閣総理大臣が今まで自分の主張していた主義主張や行動がガラッと変えて、鮮やかな色になる。君子とは、内閣総理大臣の下にいる大臣や次官ですから、その人達が大人に倣って変わろうと努力する。ですから来年、もしも鳩山さんが虎変して鮮やかなものになれば、来年は相当変わるでしょう。しかしその動きがなければ、今年の経済不況でどうしようもない状態を受け継ぐことになります。

来年も出口の見えない不況のトンネルは相変わらず続いて、出口はない。内閣総理大臣が償いもしないし、政治家が皆、改めようとしないから、ずっと経済不況は続きますし、デフレスパイラルが更に続いていく。日米の関係も悪化し、坂を少しずつ下りていく一年だと思っています。更にそういう時には、弱り目に祟り目で、後半になると鳥の新型インフルエンザが出てくると思います。そうなると日本人は相当な数が死ぬ事になると思います。

その次の年が辛卯（しんぼう）という年なので、この年に本物の経済悪化が来ると思っています。ちなみにその時は、電気・ガス・水道が使えなくなるような時期が来ると思います。ですから今から亀の甲羅をがっちり固めるような動きをして、再来年の経済大悪化に向けて、自己防衛を徹底的にして戴くとよろしいと思います。

有難うございました。